

## 2025（令和7）年度 高大連携フォーラム 開催報告

探究を「学びの核」とするために－探究学習の課題共有から始める高大連携の実践と展望－、をテーマに以下のとおり開催した。

日 時：2025（令和7）年10月6日（月）15:00～17:10

会 場：関西大学 梅田キャンパス 8Fホール（オンライン併用）

申込者数：87名

参加者数：69名

### <参加状況>

	申込（名）	参加（名）	参加率
来場	47	43	91.5%
オンライン	40	26	65.0%
合計	87	69	79.3%

### <参加者内訳>

	来場	オンライン	合計
会員大学	9大学15名	8大学8名	16大学23名
会員大学外	1大学2名	10大学10名	11大学12名
高等学校	17校23名	6校6名	22校29名
その他	3名	2名	5名
合計	43名	26名	69名

### プログラム：

15:00-15:05	開会挨拶 真銅 正宏氏（追手門学院大学 学長 / 大学コンソーシアム大阪 高大連携部会長）
15:05-15:45	基調講演 池田 文人氏（大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授・学長補佐アドミッショングセンター長）
15:45-16:05	事例発表① 山崎 哲嗣氏（大阪女学院高等学校 校長・副理事長）
16:05-16:25	事例発表② 西澤 淳夫氏（大阪府立千里高等学校 教諭）
16:35-17:05	意見交換
17:05-17:10	閉会挨拶 高屋 定美氏（関西大学 高大連携センター長 商学部 教授 / 大学コンソーシアム大阪 高大連携部会推進委員会 委員長）

<ファシリテーター> 峯 明秀氏（大阪教育大学 理事・副学長）

/ 大学コンソーシアム大阪 高大連携部会推進委員会 副委員長）

主 催：特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪

後 援：大阪府教育委員会、関西大学高大連携センター

### <基調講演 概要>

本講演では、探究的な学びにおいて中核をなす「問い合わせる力（問う力）」の重要性について解説がなされた。池田氏からは、学習者が気づきを得る過程から疑問を生み出し、仮説を構築して研究課題（Research Question : RQ）へとまとめていく一連の思考の流れを示しながら、探究活動における論理的推論の在り方について具体的な説明があった。特に、帰納・演繹・仮説といった推論の型を理解し活用することが、質の高い問い合わせの形成につながる点が強調された。さらに、Qi アセスメントと CBT (Computer Based Testing) を組み合わせた実証実験の事例を通じて、問う力の育成とその評価に関する実践的な試みが紹介され、探究の質を高めるための評価手法の可能性について示唆が得られた。

### <事例発表① 概要>

本発表では、土曜日の通常授業を廃止し、学びと探究の場として新たに構築された「土曜プログラム」の実践が紹介された。このプログラムは、個別最適化やQOL（生活の質）、生涯学習、興味・関心といった多角的な視点から、生徒一人ひとりの主体的な学びを促進することを目的としており、多様な学びの可能性を示すカリキュラム設計や、現実的な費用試算の検討内容も共有された。

また、地域資源を積極的に活用することで、「開かれた学びの場」としての学校の新たな役割を提示するとともに、少子化や高大連携の枠を超えた次世代の教育のあり方についての考察がなされた。

### <事例発表② 概要>

本発表では、生徒の興味・関心を出発点として、探究のテーマ設定からリサーチクエッション（RQ）の形成・深化へつなげる実践が紹介された。

また、教員が果たすべき役割や支援の在り方について、西澤氏自身の過去の試行錯誤や失敗例を交えながら具体的に解説があった。また、研究ポートフォリオの活用、校内外での発表会の実施、大学やティーチング・アシスタント（TA）との連携など、多面的なアプローチによって生徒主体の探究を継続的に支える仕組みが示され、その成果と課題が共有された。

### <意見交換>

講演および事例発表の終了後には、参加者と講師陣による意見交換が行われた。

講演内容に関する質問や感想のほか、各校での実践事例や現場で直面する課題についても活発に意見が交わされ、探究的な学びの深化に向けた多様な視点が共有された。

アンケート： 別紙のとおり

以上

### <フォーラムの様子>



基調講演：池田氏



事例発表①：山崎氏



事例発表②：西澤氏



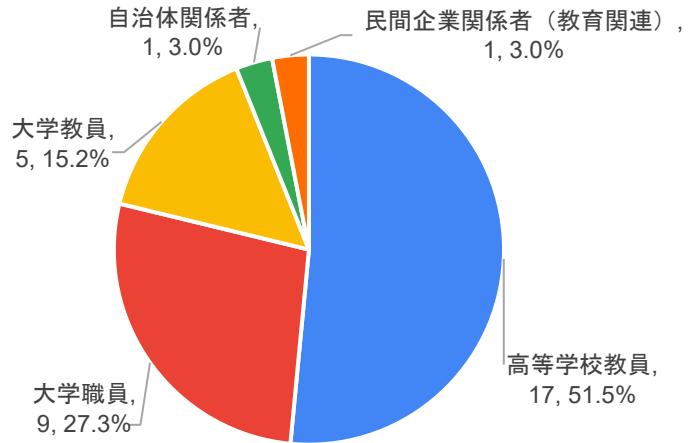
意見交換

## 2025（令和7）年度 高大連携フォーラム 参加者アンケート結果

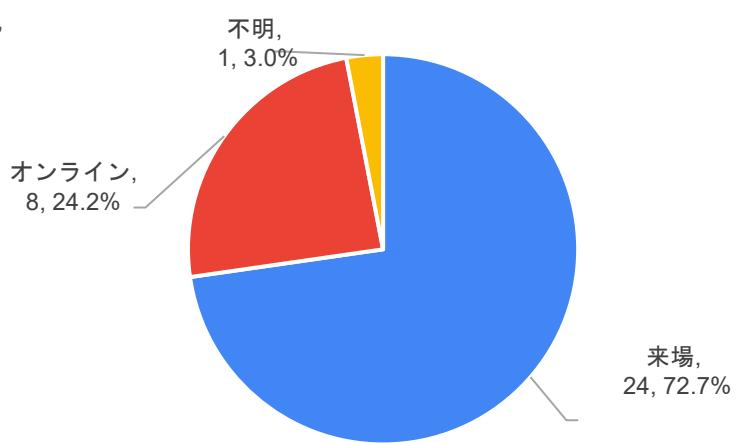
参加者 69名 回答者 33名 回答率 47.8%

## 1 参答者について

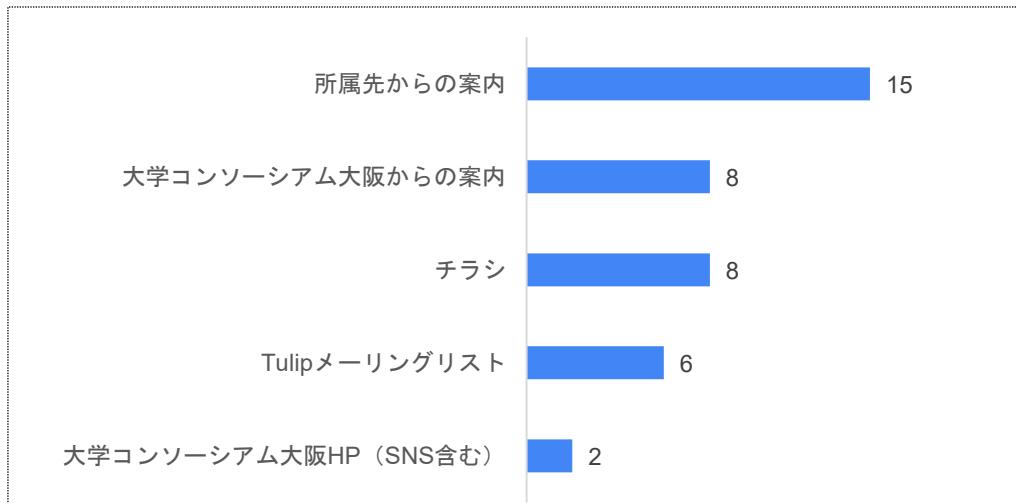
## 【属性】



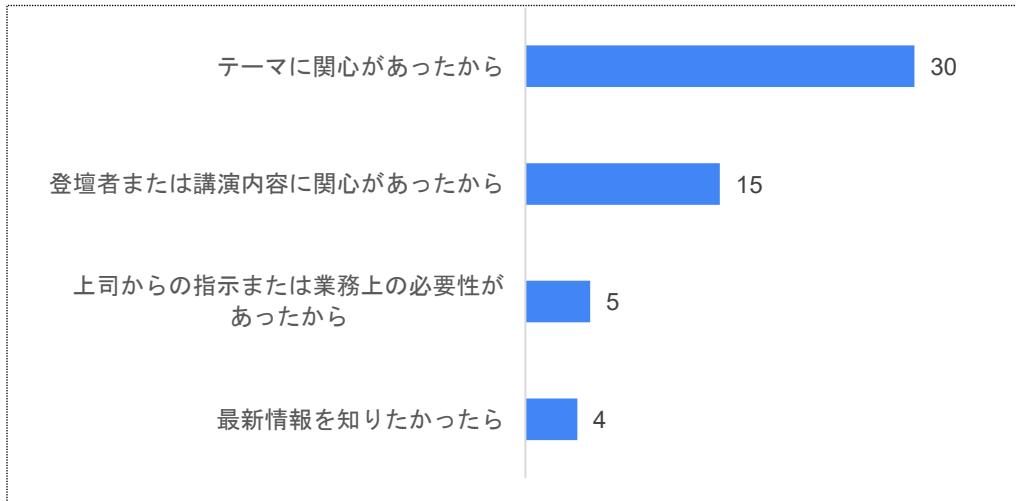
## 【参加方法】



## 2 フォーラムを知ったきっかけ（複数回答可）

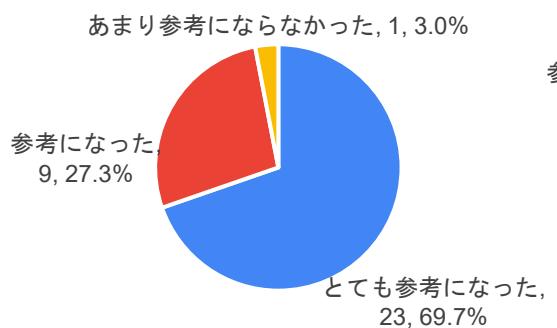


## 3 フォーラムに参加しようと思った理由（複数回答可）



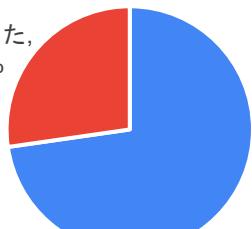
#### 4 フォーラムについて

① 基調講演



② 事例発表

参考になった,  
9, 27.3%



③ 意見交換

参考になった,  
13, 39.4%



#### 意見や感想

##### 〈基調講演〉

- これまで問い合わせについてはざっくりしたイメージしか持てていなかったが、帰納推論・演繹推論・仮説推論のお話を伺って、問い合わせのヒントを得られました。
- 問う能力を育成するために、その能力が測れるというのは、すごく必要なことだと感じました。それを現在進行形で開発されていて、その効果検証を進められていたので、もっと内容についてお伺いしたいですし、ぜひ何か協力させていただきたいと感じました。
- 問う力をデータで分析していることに驚いた。高校ではできない分析力をぜひ利用してみたいと思った。
- 「問うこと」の整理が良くできていたとても参考になると思いました。今後に期待しています。
- 私にとっては高度な内容でしたが、大変勉強になりました。

##### 〈事例発表①〉

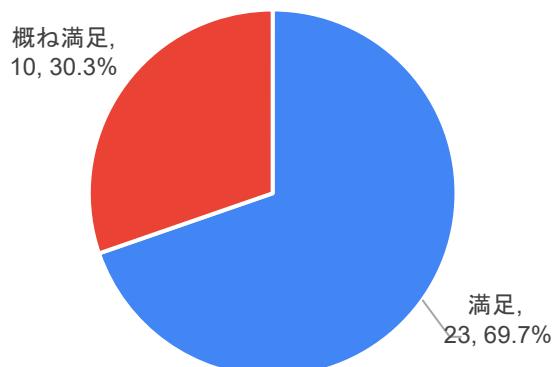
- CASL のプロジェクトがとても魅力的でした。企画調整する教員側の負担は大きそうですが、生徒側は興味関心に応じて自分に必要なものを安く学べてとても良い取組だと思いました。講座一覧や試算の資料も参考になりました。
- 先生ご自身がワクワクしながら取り組んでいる姿が生徒にも伝わっているように思います。
- 土曜日に講座を設けて、学生が希望する講座に出席して学べるのは良いかと思いました。企業や外部の講師の方とのプログラムも、視野も広がり、興味・関心を広げられるのではと思いました。
- 校外活動が活発で、探究のあるべき姿であると感じた。公立でもできそうなことがあったので参考にしたい。
- 話し方がとても面白かったです。
- 本校でも土曜日の取り組みを実施しており、参考になりました。
- とても興味深いプログラムだと感じた。将来的には、地域の方にも開かれたプログラムを目指しておられるとの説明があり、今後の発展を期待するとともに、大学として、どのような連携ができるのかを考えてみたいと思った

## 〈事例発表②〉

- ・リサーチクエスチョンの設定や研究の進行にあたって、マップ化して生徒自身が整理できるようにすることを伺いとても参考になりました。
- ・探究の実際を通しての失敗談などが、実際に共感できる部分が多く、次の指導に活かせそうな話がたくさんあり、勉強になりました。大学教員としても、高校時代の探究がどのような学びであったのかを丁寧に把握する必要性を感じました。
- ・学生が探究するうえでの教員としての関わり方について、苦労されている内容をお伺いして、すごく興味が沸きました。また、学生が取り組みを深めるために校内の発表会や外部の発表会、大学院生によるサポートなど、刺激になるだろうと思いました。
- ・経験に熟慮を重ねていることがよくわかり、貴重な実践だと思いました。
- ・探究担当管理職として、他校から学ぶ必要性を感じる内容でした。
- ・我々の目指しているところと合致する内容だったので、興味深かったです。もっと時間をかけて詳しい内容を教えてほしかった。
- ・具体的な事例をもとに紹介していただき、共感できる部分や納得できる部分が多々あった。「生徒の主体性」「アクティブラーニング」の意味やあり方を考えさせられる講演だった。教職をとっている学生が聞いても、非常に参考になるのではないかと思った。また、探究指導における大阪大学の院生の関わり方について、興味を持った。院生自身への教育的効果もあると思うので、院生の感想なども聞いてみたいと思った。

## 5 フォーラム全体の満足度

〈全体〉



〈参加者形態別〉

※参加形態不明 1名

来場  
24名

満足,  
18,  
75.0%

概ね満足,  
6,  
25.0%

オンライン  
8名

満足,  
4,  
50.0%

概ね満足,  
4,  
50.0%

## 6 5.にて回答した理由

〈満足〉

- ・問う力を測る方法から高校現場での実際の取り組みまでお伺いすることができて、良かったです。
- ・RQの立て方や学習者の意欲向上のヒントを多くいただけたから。
- ・私は、「土曜日の新しい取り組み」および「探究担当」であるため、テーマが日頃の業務に直結して勉強になりました。
- ・高校での具体的な事例を伺うことができて、非常に参考になった。
- ・内容が良く、ニーズに合っていた。
- ・高校においては、大学との連携、さらにその先の地域との連携を見据えて、という部分が印象に残りました。

〈概ね満足〉

- ・それでも入試や入学後の教育で、どのように高大連携をするかは手探り、難しい部分があると感じる。
- ・公立大学の講演が高校とは違う視点で大変参考になりました。

7 フォーラム全体についての意見や感想

- ・グループで共有する時間が少しでもあるとよいと感じました。
- ・もっとお話ししたいと感じるぐらい参加させていただいて、良かったです。
- ・無料であること、オンラインで参加しやすかったのがよかったです。また参加したいと思います。
- ・フリーの意見交換の時間をもう少しとっていただけたとありがたかったです。
- ・良い取組みであったと思う。

8 次回のフォーラムで取り上げてほしいテーマ

- ・学校外の主体との連携等
- ・学校と企業での共創による学びの提供について